

鶴の湯温泉

リニューアルオープン

建替え工事が進められている「鶴の湯温泉」が、7月23日の竣工式を経て7月末の正式オープンを迎えようとしています。

施設は木造平屋建の宿泊施設を備えた温浴施設で、既に施設の外観は完成し、オレンジ色の屋根がとてもきれいに目に写ります。

今後の予定を説明いただいたグループ代表の小松 燿氏は「オープンの問合せが増えています。期待の高さを感じます。早くその声に応えたい」と完成を待つ気持ちは私たち町の想いと一緒の様でした。



完成間近の鶴の湯温泉の外観
今まで以上、景色を楽しめるよう周辺整備もすすめている。

項目	主なデータ
泉温	14.6℃
視覚的試験	淡黄色 澄明 無味 弱硫化水素臭
pH値	8.3
泉質	含硫黄・ナトリウム・塩化物・炭酸水素塩泉
泉質の適応症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消火器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病、糖尿病

鶴の湯温泉再生に町が取り組んだこと

今までの施設は老朽化が進み旧早来町時代から再生計画が進められてきましたが、当時財政難の町と経営者側の計画内容との隔たりなどでなかなか進展することができませんでした。

その間、「早来湯」が老朽化などを理由に廃業し、早来市街から公衆浴場が姿を消す事態となりました。

現在、合併で町内には「ぬくもりの湯」が公衆浴場として確保はされていますが、歴史的にも知名度もある温泉施設の存続が早来地区に限らず町としても必要と判断し、「鶴の湯温泉再開発事業」として調整を進めた結果、昨年三友プラントグループ「早来工営」が運営主体として再建に着手することになり、近々完成の運びとなりました。

鶴の湯温泉の由来

明治4年の陰暦2月、しばしば病鶴が沢池に浴するのを見た。病鶴は病気が治って再び来なくなつた。翌年また傷ついた鶴が来て浴していたが、傷が治ってから遂に来なくなつた。たまたま人畜のけがをしたものがあり、試みにその水を以って患所を温めてみると、たちまちなおり、神の如き効能があつたので、これが霊泉であることがわかつた。

そこに室を作り浴槽を設けて患者に入浴させたことが由来で「鶴の湯温泉」と命名したそうです。

「早来町史より抜粋」

鶴の湯温泉の情報は、オープン後に再度お知らせする予定です。

「ぬくもりの湯」リフレッシュ！

ぬくもりの湯では、集客力アップを図るため、プロポーザル方式により民間企業のノウハウを生かした新たな管理運営方式へと転換し、さまざまなサービスやイベントを実施しています。

6月26日（露天風呂の日）には、お楽しみ抽選会やミニライブを開催。また、軽食コーナーでは地元の食材を使った当日限定メニューが登場。7月以降も新作メニューの開発や季節に応じた魅力的なイベントを企画しています。

「ぬくもりの湯」の使命とセールスポイント

平成14年3月にオープンした「ぬくもりの湯」は、平成5年に民間で経営していた追分地区の公衆浴場「松の湯」の廃業に伴い、町営公衆浴場を暫定的に設置のうえ、以前から建設計画のあった保健・福祉と情報の拠点としての機能をもち合わせた施設（現在のぬくもりセンター）に公衆浴場を併設したものです。



季節ごとの装飾は、ライトアップなど工夫を凝らします。

ぬくもりの湯は、9種類の天然鉱石（活性石）で活性化されたミネラルウォーターを使った温浴施設で、その水を温風に近い蒸気にしたバイタルサウナは、温度が低く体に負担が少ないので、子どもからお年寄りまで安心して楽しめます。

また、体の不自由な方が安心して入浴することができる「ひまわりの湯」も備えています。

現在内風呂が当たり前の時代ですが、町内外からの常連客や、風呂が壊れたなどの一時的なケースも含め「風呂が無い」方もいらっしゃいます。

ぬくもりの湯はそういった機能や目的を持ち公衆浴場として収支バランスを整えながら存続する使命をもっています。

町民のみなさんに知っていただきたいポイントです。